

普及啓発小冊子掲載事例について（第2回部会意見反映）

	タイトル	概要	課題	第3章「考えること」との連動キーワード	
事例①	話し合うきっかけが見つからない事例	◆本人 80歳 ◆家族 一人暮らし。子がいるが遠方に在住。配偶者は既に他界。 ア. 軽い脳梗塞を発症。麻痺が残るが自力で生活ができる。 イ. 再度の脳梗塞を起こした場合、更に麻痺が広がり、食事や入浴などが困難になると言われている。	ア. 治療のことは、医者に任せておけばいいと思っている。 イ. 自力で生活ができなくなった場合の居場所について ウ. 話し合うきっかけが見つからない エ. これからの自分の姿（予後）の把握ができていない	まずはここから どんなふう に過ごした いか 最期まで自分 らしく生きる ための医療	これまで大切にしてきたこと、これから大事にしたいこと、財産についてどうしたいか 現在の生活を継続するために何をしなければならないのか、再発した場合にどのような医療を受けたいか・受けたくないか、どのような介護を受けたいか 心停止に至った時の心肺蘇生、人工呼吸器の装着について、自分が意思表示できなくなった時自分の代わりに医療や介護について判断してほしい人は誰か
事例②	これからの生活について話し合いができていない事例	◆本人 40代 女性 会社勤務 ◆家族 夫 ア. 40歳のとき、乳がん（ステージ2）と診断。 イ. 徐々に使用できる抗がん剤がなくなっているほか、副作用が身体に負担をかけており、治療の継続が難しくなっている。 ウ. 妻は、今回の治療以降は積極的治療を終了し、在宅での緩和ケアのみの治療に移行するか迷っており、治療継続を希望する夫と話し合わなければと考えている。	ア. 治療のつらさ、病状の変化により、本人の考えが何度も揺れ動く。（体調が落ち着いているときに話し合うのがよい。） イ. ACPはこれまで行っておらず、家族は本人の思いを十分に理解できていない。	まずはここから どんなふう に過ごした いか 最期まで自分 らしく生きる ための医療	これから大事にしたいこと どこで誰とどのように暮らすのか、最期までどのように暮らしたいのか 医療における事実認識をどうするか、適切な医療をどう選択するのか（どんな医療を受けたいか・受けたくないか）
事例③	認知症の父との話し合いに悩んでいる事例	◆本人 70代 男性 持ち家に一人暮らし ◆家族 娘が近所に居住。 ア. 認知症と診断。自宅での療養を希望。 イ. 現在、食事やトイレ（時々失禁がある。）は概ね自力でできているが、判断力の低下、会話が難しい時間がでてきている。	ア. 現在の状況で何をどのように話し合えばいいのか悩んでいる イ. 認知症の進行を視野に入れた話し合いをどのように行うのか（代理決定、事前にできるだけ希望を話し合う） ウ. 家族と本人の希望の不一致（自宅か施設か）	まずはここから どんなふう に過ごした いか 最期まで自分 らしく生きる ための医療	これから大事にしたいこと どこで過ごしたいか、どんな介護を受けたいか 人工呼吸器の装着について、心停止に至った時の心肺蘇生、医療における事実認識をどうするか、適切な医療をどう選択するのか（どんな医療を受けたいか・受けたくないか）
事例④	本人の希望と適切な医療のすり合わせが難しい事例	◆78歳 女性（喫煙歴50年以上） 夫と持ち家で二人暮らし ア. 救急搬送され入院し、気管挿管。COPDの診断で酸素吸入。5日後に退院。 イ. 医師からは、もっと悪くなればHOTが必要になると言われ、生活改善を薦められている。	ア. 本人の希望（禁煙をしたくない）は明確にあるが、医療者側との判断と異なる場合について	まずはここから どんなふう に過ごした いか 最期まで自分 らしく生きる ための医療	これまで大事にしてきたこと、これから大事にしたいこと これからどのような生活を望むのか 医療における事実認識をどうするか、適切な医療をどう選択するのか（どんな医療を受けたいか・受けたくないか）
事例⑤	本人の治療について家族間で意見が異なる事例	◆80代 男性 ◆妻と二人暮らし、息子（社会人）が遠方に在住 ア. 徐々に身体の機能が低下し、要介護4。寝たきりで本人の意思が不明（認知症）。 イ. 妻が介護をする老老介護の状態では生活を続けている。 ウ. 誤嚥性肺炎により入院を繰り返すようになった。	ア. これまで本人が考えてきたことや話していたことについて共有されていない。 イ. 本人の治療について、家族間で意見が異なり（妻：延命治療をせずお家での看取りを希望、息子：病院での延命治療を希望）、話し合いが行われていない。 ウ. 本人の意思をどのように推定するか。 エ. 医療情報を把握した上での治療の選択ができていない。	まずはここから どんなふう に過ごした いか 最期まで自分 らしく生きる ための医療	これまで大切にしてきたこと 現状を維持するためのサービス（リハビリ、デイサービス）をどう考えるか、口から食べられなくなった時の希望 人工呼吸器の装着について、心停止に至った時の心肺蘇生、自分が意思表示できなくなったとき、自分の代わりに医療や介護について判断してほしい人はだれか

以下の事例は、コラムとして掲載する。

	タイトル	概要	課題
事例⑥ （新規）	終活をやったつもりになっている事例	◆70代 女性 ◆独居 ア. 近頃、心身の活力（筋力や認知機能など）が低下していくことに不安を感じ、エンディングノートを一人で作成し、家に保管した。 イ. 救急搬送された際に活用されないまま、本人の真意がわからないまま治療が行われた。	ア. 本人の真意が不明（意識不明の状態など） イ. 考えたことについて話し合いや共有がされていない ウ. 実際に医療のことを決める際には、医療関係者から十分な説明を受けながら、一緒に考えていくことが必要